

(訓練課題対応資料)

新型転換炉原型炉ふげん総合防災訓練における課題の抽出と対応について

1. 概要

令和元年9月24日(火)に実施した新型転換炉原型炉ふげん(以下「ふげん」という。)における総合防災訓練において、課題を抽出し、その原因と今後の対策について整理した。

今後の対策については、次回以降の訓練で確実に対応できるよう準備を進める。

2. 課題に対する原因と対策

ふげんの訓練において確認された主な課題として、以下の課題を抽出した。これらについて、その原因及び今後の対策について整理した。(詳細は、添付1参照)

【課題(1)】 現地対策本部

書画装置での情報共有に使用している「事象進展対策シート」に記載の時間を何度も修正した。

【原因】

- ① 記入者(情報班長)が各班長の報告(発話)の都度、情報共有の迅速さを意識し、シートに記載していたが、各班の班長は報告事項がシート以外の項目もあり、シートに注視して記載項目全てについての報告(ホワイトボードに記載なし)がされておらず、後からシートの抜け箇所について確認(ホワイトボード、各班班長)する必要性が生じ、時刻の記載箇所の修正等を行った。
- ② 記入者においては、事象進展や各班からの報告のタイミングに対してスムーズに対応しきれなかった点もあり、シートの記載箇所の抜けに気づくのが遅れてしまい、確認が遅くなってしまった。

【対策】

機構大の他の訓練結果等における改善点を踏まえ、事務局にて以下の対策を講じ、対応者(対応予定者含む)へ今年度教育訓練を実施するとともに、次年度も訓練前等において教育訓練と実施する。

(原因①に対し対策①②、原因②に対し対策①③)

- ① シートに記載する項目を見直し、対応がスムーズにできるように、作業項目の完了有無の確認時間(実時間は不要、レ点にてチェック、何時現在など)、重要なポイントは時刻(水張り時間等の事象進展に関するものなど)を記載するなど記載内容を改善する。
- ② 各班長がシートを手元におき、現場の実績確認、レ点、時刻のメモ等を簡潔に行えるようにし、シートにホワイトボードに記載する時刻の箇所であることを明確にしておく。(シートの欄外にも注意事項として記載)
- ③ 記入者における対応をスムーズにし、経験、慣れを深めるため、教育訓練を実践ベースのスピード感で実施する。

【課題(2)】 現地対策本部

緊急連絡票の記載に FAX 送信前の情報として記載できる事項があったが、記載が抜けた。

【原因】

- ① 現地対策本部内での緊急連絡票の最終記入者(総務班長)が、対応経験が浅く、記載事項について教育訓練で、十分に理解できず、記入できる項目の全てを記載しなかった。
- ② 緊急連絡票については、原災法や保安規定の通報様式と同様なチェックシートを作成しておらず、最終記入者による記載と情報に委ね、チェック体制が不足していた。

【対策】

事務局にて以下の対策を講じ、対応者(対応予定者含む)へ今年度教育訓練を実施するとともに、次年度も訓練前等において教育訓練と実施する。

- ① 対応者の経験等を踏まえて教育訓練を行うよう、教育訓練の理解度を確認するなど、教育訓練を増加(フォロー)する。
- ② 原災法や保安規定に基づく通報様式と同様に緊急連絡票のチェックシートを作成し、更に作成者、確認者、FAX 送信者のチェックの責任所掌を明確にする。

【課題(3)】 機構対策本部

即応センターの ERC 対応者(発話者)が ERC に対して説明した資料を、ERC 内に配布しなかった。

【原因】

- ① 即応センター側の ERC 対応者(統括者)は、ERC から送付要請のあった資料を送付すると誤認した。
- ② 説明に利用した資料を送付するタイミングについて、情報提供フローで明確にしておらず、統括者等による資料送付の指示が無かった。

【対策】

事務局にて以下の対策を講じ、対応者(対応予定者含む)へ今年度教育訓練を実施するとともに、次年度も訓練前等において教育訓練と実施する。

(原因①に対し対策①、原因②に対し対策②③)

- ① ERC 対応者の役割分担を明確にして、即応センター内のチェック体制を充実化する。
- ② 情報提供フローの中で、資料送信担当者が ERC 対応者(発話者)から資料を入手して複写して送付することを明確にする。
- ③ 対応マニュアルに、リエゾン派遣後の資料送付方法及び資料送信のタイミングを明確にする。

－ 以上 －

課題	要因1	要因2	要因3	要因4	要因5	要因の要否*	対策	
きーる2 緊急連絡票の記載が抜けた。送信前の情報として記載で	【人的面】 ・現地対策本部内の緊急連絡票の最終記入者(総務班長)が、記入できる項目の全てを記載しなかった。	・最終記入者は、FAXの第4報の発信に併せる必要があり、提出を急がされていた。(f) ・最終記入者の立場として、最下欄の記載に注視した。	・事象の進展が早く、第15条のFAXを送信するタイミングが近かった ・最終記入者は、対応経験が浅く、記載事項の理解が足りなかった。	—	—	×	—	
	【管理面】 ・緊急連絡票に関するチェックシート、チェック体制がなかった。	・緊急連絡票は、現地対策本部から必ずしも発信されるものではなかったため、チェックシートを作成していなかった。	・原災法、保安規定に基づく報告様式に注視していた。	・緊急連絡票は、発信するタイミングや症状等で記載できる項目に限られ、総務班(最終記入者)における情報が主体であり、記載内容を任せていた。(g)	—	—	○	①対応者の経験等を踏まえて教育訓練を行うよう、教育訓練の理解度を確認するなど、教育訓練を増加(フォロー)する。
		・緊急連絡票の記載項目の適切性(送信する時点で記載できる項目)について確認する体制(意識)が不足していた。	・緊急連絡票は、発信するタイミングや症状等で記載できる項目に限られ、総務班(最終記入者)における情報が主体であり、記載内容を任せていた。(g)	—	—	—	○	②と同様
	【作業環境面】 ・最終記入者は、FAXの第4報の発信に併せる必要があり、提出を急がされていた。(f)	—	—	—	—	—	×	—

課題	要因1	要因2	要因3	要因4	要因5	要因の要否*	対策
資料3を、即応センター内の配布しなかつた者（発話者）がERCに対して説明した	【人的面】 ・即応センター側のERC対応者（統括者）が、ERCから送付要請のあった資料を送付すると誤認した。	・ERCへの説明開始時に、ERCから「事象進展対策シート」の送付依頼を受けて送付したことから、その後も送付依頼があると誤認した。	・送付依頼を受けた場合にのみ送付すれば良いかを、即応センター内に確認しなかった。	・即応センター内のチェック体制が不十分であった。	—	○	①ERC対応者の役割分担を明確にして、即応センター内のチェック体制を充実化する。
			・統括者等が、資料送付がされていないことに気づかなかった。	—	—	○	①と同様
	【人的面】 ・説明に利用した資料を、リエゾン送付のために説明者から取りあげるタイミングの判断に迷った。	・同じ資料中に手書きで新しい情報が追記され、説明が継続されており、説明を阻害するのを懸念して、資料を取り上げて送付することを躊躇してしまった。	・一時的に説明資料を回収し、素早く複写して送付資料を作成する等の手順が明確になっていなかった。	・情報提供フローの中で明確になっていなかった。(h)	—	○	②情報提供フローの中で、資料送信担当者がERC対応者（発話者）から資料を入手して複写して送付することを明確にする。 ③対応マニュアルに、リエゾン派遣後の資料送付方法及び資料送信のタイミングを明確にし、再教育を実施する。
			・統括者等が、資料送付のタイミングを指示しなかった。	・情報提供フローの中で明確になっていなかった。(h)	—	○	②、③と同様